

タイ経済指標斜め読み

(2026 年 2 月版)

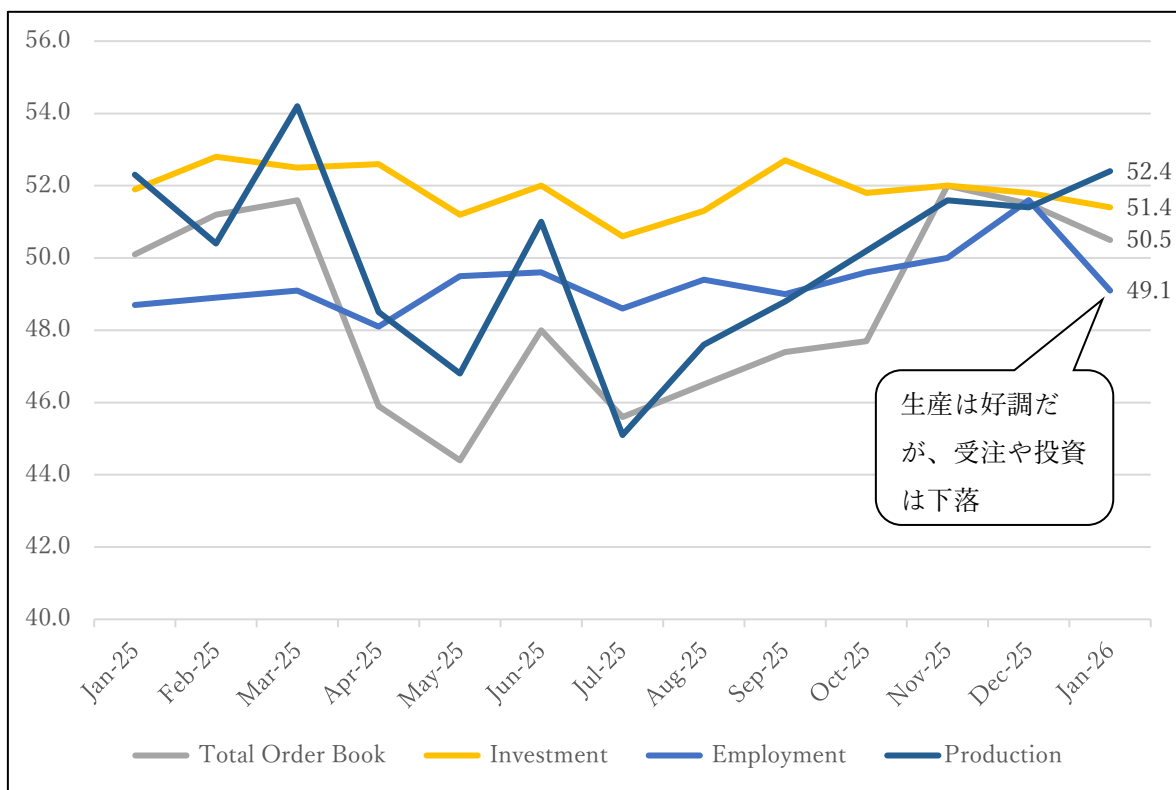
ビジネスサポート部

加藤義人

kato@mat.co.th

■No. 1 ■【指数データ】景況感指数

タイ中央銀行（BOT）は、1月の景況感指数（BSI）を発表した。（50＝前月から不変）
下グラフは、BSIの構成要素である受注、投資、雇用、生産の指数となる。

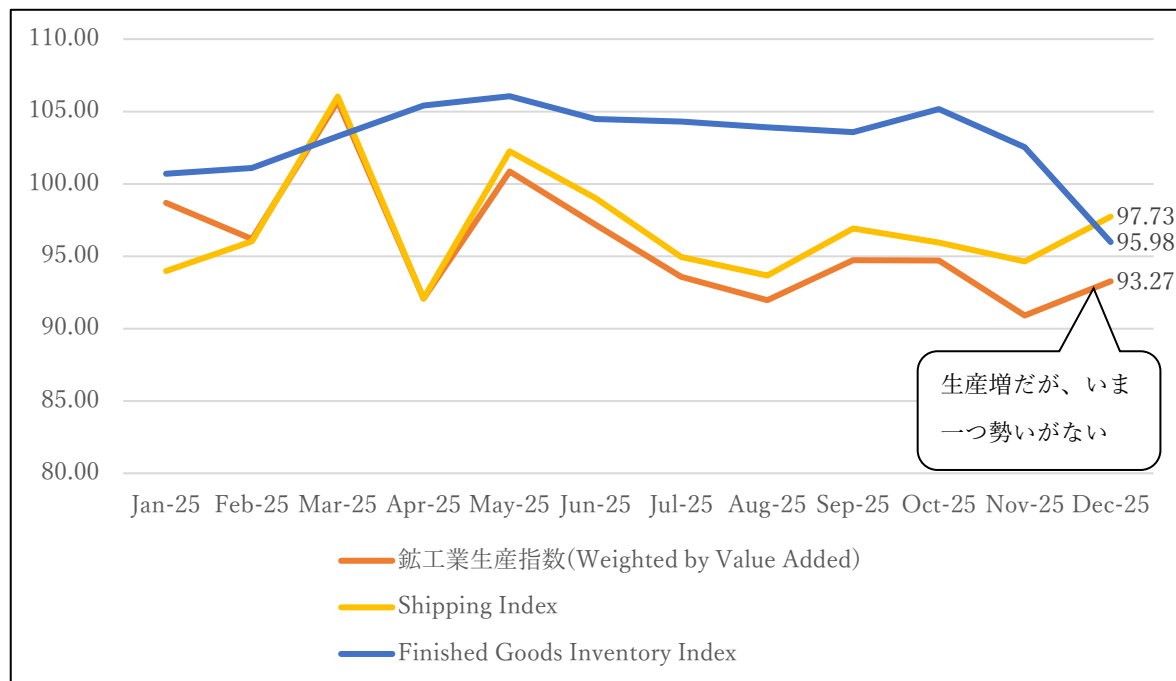


1月のBSI構成要素で最も高かった指数はプロダクションで52.4、次に投資で51.4、受注が50.5、最後に雇用で49.1となった。プロダクションが上昇した要因として、年末の財政支出でインフラ関連資材の製造が増加した事や洪水被害が落ち着いたことで、ゴム生産が回復したこと、それ以外にも全体多岐な生産量が増加したことが挙げられる。一方、それ以外の構成要素は下落となった。特に雇用は閾値の50を割り込んだ。12月にボーナスが支給され、それをもって退職をした数が影響したものと思われる。昨年の1月も同様の傾向が見られる。

出所：<https://www.bot.or.th/>

■No. 2■【指数データ】工業生産指数

タイ工業省工業経済局（OIE）は、12月の工業生産指数と輸送指数、完成品在庫指数を発表した。（2021年基準）

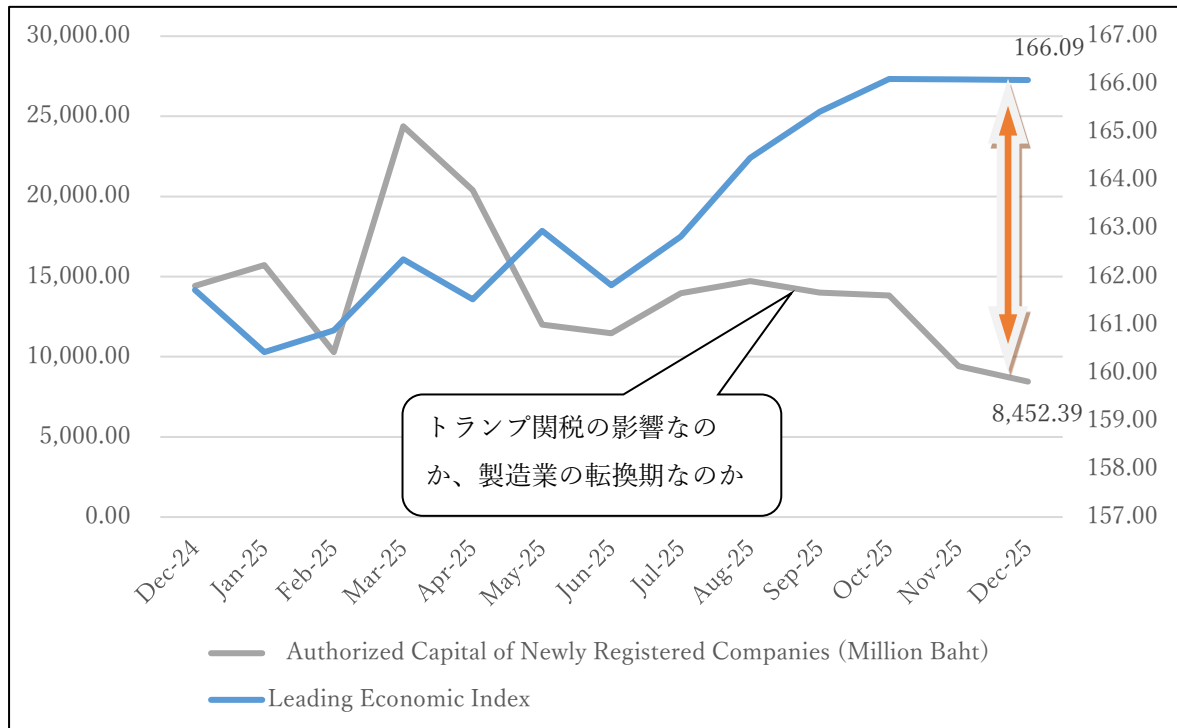


1月の工業生産指数は93.3となり、前月から改善となった。次に輸送指数は97.7で前月から改善となった。最後に完成品在庫指数は96となった。生ゴムの生産量増加を始め、電気電子製品の生産増、それ以外の生産品も増加となったことが要因。それに伴い、完成品在庫指数は低下していることが見て取れる。生産品が順次出荷されており、理想的な状況。とは言え、指数は依然2021年の基準値である100を下回る状況にて、輸出は好調だが、国内販売が思うように回復していないもよう。2月以降、自動車生産も含め指数が改善してくことを期待。

出所：<https://www.oie.go.th/>

■No. 3 ■【指数データ】景気先行指数

タイ中央銀行（BOT）は、12月の景気先行指数（Leading Economic Index : LEI）を発表した。これは経済指標の一つであり、3から4か月後の将来の経済の方向性を予測するためのもの。株価、土地開発許可、企業の登録資本金額、オイル価格など経済全体の変動よりも前に変動するいくつかの個別の指標から成る複合指数で構成。今回は、LEIのサポートデータである新規登録企業の登録資本金額を表示した。（2000年＝100）



12月のLEIは166.1となり、前月から若干の低下となったが、高位置を維持しており、26年第一四半期は、経済的に良い状況が続くと予想されている。次に、LEIの構成要素の一つである、資本金額は8,452Mill THBとなった。これはコロナ後の2021年8月に次ぐ低い額。LEIは、毎月上昇しているが、投資額は毎月減少傾向にある要因としては、工場の新規設立が減少傾向にある事と、閉鎖工場が増加傾向にある。また、商務省登録企業数は若干の増加傾向だが、投資金額は減少傾向となっている。大型案件がトランプ関税の影響で、様子見状態なのか、これからはAI関連が増加し、サーバーセンターなどのテック系が多くなり、設備投資が大きな工場は減少してく方向になるのだろうか。

出所：<https://www.bot.or.th/>

筆者紹介：2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

2026 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点で、MAT社ビジネスサポート部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わせください。